



結果の考察

❖ 運動能力に関する調査

[令和元年度との比較]

- ・実技合計点において、小学校の女子は上回りましたが、小学校の男子、中学校の男子・女子は下回りました。
- ・小学校の男子は、握力、長座体前屈、立ち幅跳びが向上し、小学校の女子は、握力、長座体前屈、立ち幅跳び、ボール投げが向上しました。
- ・中学校の男子では、握力、立ち幅跳びが向上し、中学校の女子は、握力、長座体前屈、反復横跳びが向上しました。

[県平均との比較]

- ・全国上位の新潟県平均と比較しても、小学生、中学生の運動能力は、男子・女子ともに上回りました。
- ・小学校では、男子の上体起こし、ボール投げ、女子の50m走は同程度で、それ以外は全て上回りました。
- ・中学校では、男子の反復横跳び、50m走、女子の50m走は同程度で、それ以外は全て上回りました。

❖ 運動習慣等に関する調査

- ・「運動が好き」と回答した児童・生徒は県平均よりも高くなっています。
- ・「1週間の総運動時間」は、小学校男子、女子、中学校男子で平均よりも高くなっています。中学校女子はやや低くなっています。

❖ 考察

- ・全国的には、小中学生の男女とも大幅に低下しているものの、燕市ではあまり低下していません。種目によっては高くなっています。
- ・県の施策である「1学校1取組」への真摯な取組、コロナ禍での年間指導計画の改善、児童生徒の運動量の確保に向けた取組等がこの要因と考えられます。また、ヘキサスロンの取組やつばくろいきいきスポーツクラブの取組も要因と思われます。



今後の取組

- 体力・運動能力、運動習慣などの改善に向けて、課題とその改善に向けたポイントを示すことにより、各学校において、コロナ禍の中での目標と指導計画を策定し、体力向上や健康の保持増進ができるよう努めます。
- 体育の授業等において、ICT 機器の効果的な活用が図られるよう、指導助言します。
- 令和3年度の「1学校1取組」での優れた実践を紹介し、共有していきます。
- ヘキサスロンの取組等、他課との連携も充実させていきます。